

理想の姿

参加しやすさ	小さなサークルがたくさんある	参加したいものがある	選択肢の広さ	誰もが参加しやすい場がある	出入り自由	社会教育への入り口が多くハードルが低い	地域活動に参加したいと思える	イベントがたくさんある、仲間がすぐできちゃう
活動の状態	楽しく活動している	主体的に活動している	みんなが自主的・能動的に係わっている	大人もいきいき、子どももマネしたくなる大人				
多様性と相互尊重	異年齢が交流している	お互いのちがいを認め合う	お互いの特技を生かす	フラットな関係、平等第一	地域の人の顔がわかる	フレネミー撲滅！	地域の人達が挨拶してくれれば嬉しい	寄り添う(無理のない距離感)
	つながりやすい	教える・教えられる関係でなく、ともに学び合う	多世代、多様な人が有機的に交わっている	他の人を気に掛ける姿(日々の生活の中で)	ボランティア活動を積極的に行う(高校生～高齢者)	地域に入っていく姿勢(新しい住民)	地域をこえた交流→交流サイト、研修旅行	在住外国人も暮らしやすく
	ひとりでも楽しい町	誰一人取り残さない	オーセンティックなものがたくさん、多様性大切					
地域愛	地域愛にあふれている	地域の良さを共有する	全市民が富士見市が好き(地元)	地域の問題点に気付く	みんなで問題点を解決する	市内の歴史をさらに掘りおこす	世代間つながりで伝承の実現	
広報・情報発信等	容易に知ることができる	市の考え、取り組みが分かりやすく発信されている	資料館等からの更なる情報発信	活動の見える化→学びの共有→参加者の声	各町会(富士見市全町会)の活動発表会がある	とよい	宣伝方法(誰でもわかる)	
活動しやすさ	運営ノウハウ	リソースを分かち合いやすい	場所	企てやすい	交流センターがもっとあるとよい(多くの人が集まれる場)	活動場所の確保	取り組みが持続可能である	
個人の学習に留めない	活動成果が市の価値になる	自己満足に終わらない	他者・地域に還元できる	みんなが地域のために何かをしている	学んだことを次の世代につなぐ、出前授業、地域で共に	高齢者の持てるものをさらに活用する		
社会教育施設の活用	資料館等の更なる活用	公民館が人と人をつなげている	資料館等での情報技術の更なる活用					
子ども中心	資料館等と学校との更なる連携	学校が楽しい、生徒と先生が対等	子ども同士(異年齢)のつながりがある、そういう場がある	親子で体験・参加できることが多いといい	子ども～高齢者までの交流の場があるとよい(行事等を含める)			
アプローチのあり方	自然とふれあえる	ありがとうを言える環境づくり(ICTデバイスの普及にともない対面の価値が希薄化)	人権について多面的・多角的に考える(AIに人権意識をもつ子ども)(多様性を理解できているか)	おせっかいな人をたくさん(いい意味で)	共事者意識が高い、当事者を支える	中心となる人の資質		
社会問題を解決するための活動	防災の観点から、まずは自助！自分のことを守る意識を持つ	災害時等を考え中学生と町会との交流会をもつ(中学生の助けが必要と考える)	子どもの貧困への対応(子ども食堂に留まらず社会の仕組(親、企業)へのはたらきかけ)					
その他	行政と民間、民間と各団体の連携がとれている	日常の底上げ(晴れの日だけではなく、日常を少しUPすることで楽しくなる感じ)						